

ている」(.28)、といった環境整備の不足を示す項目のほかに、「夜、暴走族が走り回っている」(.28)、という項目とも正の関連が見られる。「少年が集団でたむろして、たばこをすっている」、「ホームレスらしい人がいる」、といった項目との相関は高くないものの、人的側面についての項目と性犯罪に対する不安感との関連が想定され、適切な質問項目を作成することによって、明らかな相関関係を見いだせる可能性がある。

以上をまとめると、犯罪不安感と地域の無秩序性との関連を見ると、今回取り上げた罪種で、環境的側面と人的側面の双方の無秩序性が犯罪不安感と関連しているが、その態様は罪種により異なることが想定される。すなわち、性犯罪の場合では環境の側面よりも人的側面の影響が大きく、ひったくりの場合では環境の管理の側面が人的側面の影響よりも大きくなる。またバンダリズムの被害不安については、人的・環境的側面との関連が見られるものの、どちらかといえば加害者予備軍の存在としての人的側面の影響の方が相関が大きくなっている。

5. 日常の安全確保の取り組み

表2-5-1と表2-5-2は、地域住民による日常の安全確保の取り組み、特に近所の人や警察など公的機関と協働して行う安全確保の取り組みと治安状況との関連(相関係数)を示したものである。

表2-5-1と表2-5-2において共通して示された、治安状況以外の変数の内容は以下の通りで、いずれも町丁目単位で回答者の回答を平均したものである。

「不審な人物を見かけたら、近所の人に注意を促す」「外出するとき、近所の人や管理人に一声かける」「近所の人と防犯パトロールをする」「近所の人と地域の安全について話し合う」…この4項目は、いずれも日常どの程度心がけて行っているかを、「いつもしている」「ときどきしている」「ほとんどしない」で尋ね、心がけて行っている方をプラスに得点化した。

「地域の防犯活動や非行防止活動への参加」…現在、地域の防犯活動や非行防止活動にどの程度参加しているかを、「積極的に参加している」「一応参加している」「参加していない」「この地域では、そのような活動が行われていないと思う」の4件法で尋ね、積極的な参加の方がプラスになるように得点化した。

まず、「日常の安全確保の取り組み」と犯罪発生との関連(相関係数)を示したのが、表2-5-1である。まず、ひったくりの認知件数については、「外出するとき、近所の人や管理人に一声かける」「近所の人と防犯パトロールをする」「近所の人と地域の安全について話し合う」「地域の防犯活動や非行防止活動への参加」のそれぞれとの間で、絶対値が.21以上の負の

相関係数が得られ、ひったくりの認知件数が少ない地域ほど、地域住民が協働して安全確保のために積極的に取り組む傾向が見いだされる。同様の傾向は、自己報告によるひったくりの被害についても見られ、「近所の人と防犯パトロールをする」あるいは「地域の防犯活動や非行防止活動への参加」との間で、絶対値が.22以上の負の相関係数が得られ、ひったくりの自己報告被害が少ない地域ほど、地域住民が協働して安全確保のために積極的に取り組む傾向が見いだされる。図2-5-1には、ひったくりの認知件数と「近所の人と防犯パトロールをする」という項目の関連の地域的な分布を示した。また、自己報告によるバンダリズムの被害については、「近所の人と防犯パトロールをする」「近所の人と地域の安全について話し合う」「地域の防犯活動や非行防止活動への参加」の各項目との間で、絶対値が.20以上の負の相関係数が得られ、バンダリズムの自己報告被害が少ない地域ほど、地域住民が協働して安全確保のために積極的に取り組む傾向が見いだされる。一方、自己報告によるちかんの被害については、地域住民の協働的な安全確保の取り組みとの間に有意な関連は見られない。

表2-5-1 日常の安全確保の取り組みと犯罪の認知・被害状況

	ひったくり 認知件数 (人口千人あたり)	居住地域での犯罪被害 (過去5年間)		
		ひったくり	バンダリズム	性的犯罪
不審な人物を見つけたら、近所の人に注意を促す	0.05	-0.19	-0.12	-0.05
外出するとき、近所の人や管理人に一声かける	-0.23	0.06	-0.03	0.01
近所の人と防犯パトロールをする	-0.28	-0.23	-0.22	-0.05
近所の人と地域の安全について話す	-0.21	-0.18	-0.20	0.01
地域安全活動への参加	-0.34	-0.22	-0.23	-0.10

表2-5-2 日常の安全確保の取り組みと犯罪被害に対する不安感

	犯罪不安感		
	バンダリズム	ひったくり	性的犯罪
不審な人物を見つけたら、近所の人に注意を促す	0.20	0.30	0.16
外出するとき、近所の人や管理人に一声かける	-0.05	-0.18	-0.22
近所の人と防犯パトロールをする	-0.07	0.04	-0.24
近所の人と地域の安全について話す	0.17	0.30	0.19
地域安全活動への参加	-0.20	-0.18	-0.31

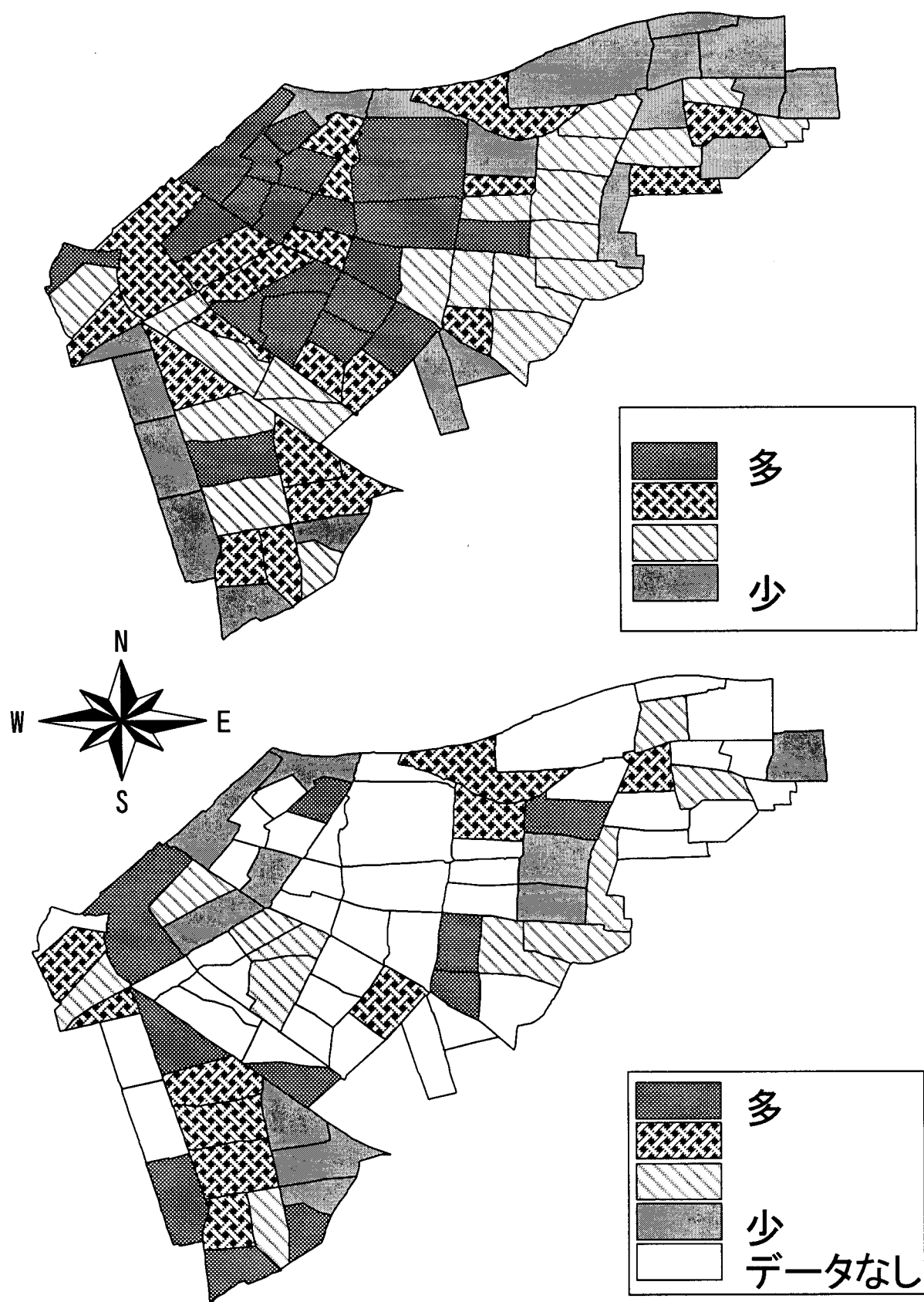


図2-5-1 ひttくりの認知件数(上段), 近所の人と防犯パトロールをする(下段)

次に、表2-5-2は、「日常の安全確保の取り組み」と犯罪不安感(町丁目単位の平均値)との関連(相関係数)を示したものである。まず、ひったくりにあう不安感については、「地域の防犯活動や非行防止活動への参加」との間で、-.20の相関係数が得られ、ひったくりに対する不安感の低い地域ほど、地域住民が協働して安全確保のために積極的に取り組む傾向が部分的に見いだされる。同様に、ちかんにあう不安感については、「外出するとき、近所の人や管理人に一声かける」「近所の人と防犯パトロールをする」「地域の防犯活動や非行防止活動への参加」のそれぞれとの間で、絶対値が.22以上の負の相関係数が得られ、ちかんに対する不安感の低い地域ほど、地域住民が協働して安全確保のために積極的に取り組む傾向が示されている。図2-5-2には、ちかんにあう不安感の程度と、「地域の防犯活動や非行防止活動への参加」への回答の地域的な分布をまとめた。なお、「不審な人物を見かけたら、近所の人に注意を促す」と「近所の人と地域の安全について話し合う」については、バンダリズムに対する不安感あるいはひったくりに対する不安感との間で絶対値.20以上の正の相関係数が出ているが、これはバンダリズムやひったくりの被害が多発する地域で対処行動として住民の協働活動が生じていることを示唆していると考えられる。

6. 地域内の安全確保の取り組み

表2-6-1と表2-6-2は、住民の目から見た地域内の組織的な安全確保の取り組みと治安状況との関連(相関係数)を示したものである。

表2-6-1と表2-6-2において共通して示された、治安状況以外の変数の内容は以下の通りで、いずれも町丁目単位で回答者の回答を平均したものである。

「警察の情報提供」・・・警察の地域住民に対する情報提供がどの程度十分か、あるいは迅速かを以下の4項目で尋ねた。1) 地域内の具体的な犯罪および事故の発生状況に関する情報提供(が十分)、2) 具体的な犯罪被害防止、事故防止の方法に関する情報提供(が十分)、3) 住民が行っている地域の安全を守る活動の状況に関する情報提供(が十分)、4) 地域住民に対する警察の情報提供が迅速。回答選択肢は、1～3までが「まったく十分」から「まったく十分でない」までの4段階に「なんともいえない」を加えた5件法、4では「非常に迅速」から「まったく迅速でない」までの4段階に「わからない」を加えた5件法であり、肯定的な回答の方をプラスに得点化して4項目の合計点を用いた。

「青少年の非行を防止するための環境浄化活動」「地域住民による地域内のパトロール」「警察官による地域内のパトロール」「警察が住民の要望や意見を知ること」「地域環境に対する自